

## 工場環境保全対策

### 水環境保全

水環境保全のため、工場での製造工程や生活雑排水などのさまざまな排水の汚濁濃度を毎日測定しました。1996年度も、水質汚濁防止法および自社基準値を超えるものではありませんでした。また、社会的にも重視されている生物化学的酸素要求量の低減についても重点的に取り組んでいます。

排水測定実績(例:須坂工場): 単位:ppm(mg/l)

項目		規制値			実測値(MAX)		
		国の基準	県の基準	自社基準	1994年度	1995年度	1996年度
有害物質	シアン	1	0.5	0.05	不検出	不検出	不検出
	鉛	0.1	0.1	0.02	不検出	不検出	不検出
	六価クロム	0.5	0.3	0.03	不検出	不検出	不検出
	総水銀	0.005	0.003	0.0006	不検出	不検出	不検出
	トリクロロエチレン	0.3	0.3	0.03	不検出	不検出	不検出
	テトラクロロエチレン	0.1	0.1	0.01	不検出	不検出	不検出
	1,1,1-トリクロロエタン	3	3	0.3	不検出	不検出	不検出
一般項目	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	6.0~8.0	6.12~7.54	6.35~7.53	6.15~7.83
	生物化学的酸素要求量(BOD)	160	160	70	45.80	38.28	28.78
	化学的酸素要求量(COD)	160	160	50	36.55	12.34	13.35
	浮遊物質	200	200	50	32.40	46.40	22.80
	銅	3	2	0.5	0.04	0.02	0.04
	亜鉛	5	3	0.5	0.35	0.17	0.1
	溶解性鉄	10	10	2	0.83	0.23	0.52
	溶解性マンガン	10	10	1	0.02	0.30	0.29
	全クロム	2	1	0.5	不検出	不検出	不検出
	ふっ素	15	15	8	1.38	2.67	1.95
ニッケル	-	-	1	0.10	0.02	0.08	

### 大気環境保全

大気汚染や地球温暖化の原因になる窒素酸化物の排出を抑制するため、1996年度はボイラーの蒸気ドレイン水の熱回収などによる燃料使用量の削減や、工場の必要熱量に応じたボイラー運転の適正化(複数台数のボイラーの空気混合比調節による燃焼効率向上)などにより排出ガスの削減に努めました。1996年度も、大気汚染防止法および自社基準値を超えるものではありませんでした。

大気測定実績(例: 須坂工場)

項目(単位)		規制値		実測値(MAX)		
		国の基準	自社基準	1994年度	1995年度	1996年度
ボイラー	窒素酸化物(ppm)	250	200	130	110	118
	硫黄酸化物(Nm <sup>3</sup> /H)	20.4	16.3	2.0	1.4	1.1
	ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )	0.3	0.2	0.0081	0.0045	0.0054

## 騒音・振動

工場の騒音・振動による付近住民への影響を防止するため、騒音や振動の測定を実施し、適切な管理を行いました。

騒音・振動測定実績(例: 川崎工場) 単位: dB

項目	規制値		実測値(MAX)		
	県の基準	自社基準	1994年度	1995年度	1996年度
騒音	65.0	60.0	57.2	58.7	57.2
振動	65.0	50.0	43.0	42.7	44.3

(注)

- 実測値は昼間のデータ(道路工事や交通車両の暗騒音を除く)
- 測定場所: 工場と接する公道(敷地境界線)の13ポイント
- 測定回数: 年4回
- 測定方法:  
〈騒音〉JIS Z 8731 による。  
〈振動〉JIS C 1510 に定める振動レベル計を用いて鉛直振動を測定。

## 工場緑化の推進

■ 苗床の苗木



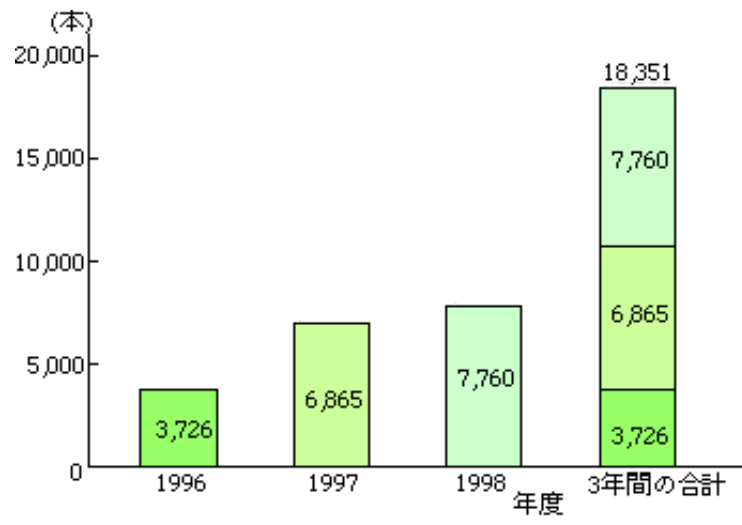
■ 植樹2年目のもの



自然や環境の保護、周辺環境との調和を目標に、多様な生態系が自然で豊かな営みのできるエコロジー緑化を目指した「グリーンUP10」という樹木の本数を増やす運動を行っています。1996年度は全工場で 3,726本の樹木を植えました。

今後2年間に約14,625本の樹木を植えていき、1998年度末には、全工場の樹木本数を約110,000本にする計画です。

■ 植樹実績・計画本数



(注) グリーンUP10

工場の総植樹本数を1998年度末までに1995年度比で10%増加させる運動。